

きれいな空気と水、豊かな大地から考える、 人と地球のウェルビーイング — JICAのプラネタリーヘルス実践 —



プラネタリーヘルスとは

「プラネタリーヘルス」は、人や動物と地球の健康のつながりを重視し、それらを総合的にとらえ社会・経済・生態系にアプローチしていくという考え方です。私たちの健康は健全な地球環境に支えられていますが、人間の活動がもたらす環境汚染が深刻化し、地球の健康状態は限界に近づいています。この地球の環境の限界を超えない範囲で、人々が健康で文化的に生きるための社会的な最低限の基盤を確保し、持続可能な人類の健康と繁栄を追求していくことがプラネタリーヘルスの目指すものです。

地球のSOS？ 私たちの健康を脅かす環境問題

我々の生活で使われたあとに出される、水、大気、そしてごみが、海や大気を漂い、様々な国にたどり着くように、環境問題に国境はありません。一つの社会で発生しているこうした地球への大きな負荷は、海洋プラスチック問題や気候変動といった地球全体の大きな課題につながっています。

これは我々一人一人の問題であると同時に、未来への世代にこの豊かな地球を残していくために、こういった取り組みができるのかを今すぐ考える必要があります。

「廃棄物」(ゴミ)と人への影響、 そして地球の健康



街に捨てられたゴミは、感染症を媒介する蚊やハエ、ネズミ等を誘発し、人への健康リスクを高めています。またポリ塩化ビフェニル(PCB)、水銀といった有害廃棄物や医療廃棄物の不適切な処理は、私たちの生活環境を直接に脅かしています。さらに放置されたゴミが川や海に流れ着き、ゴミ自体による汚染で地球にダメージを与えています。

また、廃棄物の問題は地球の健康リスクをも高めています。例えば、家庭ごみが埋め立てられた場所からは、二酸化炭素の25倍以上も強力な温室効果があるメタンが発生し^[1]、気候変動を加速させています。ごみの野焼きは、大気汚染やダイオキシン等の有害物質の発生原因となります。

また、海に流れ出たプラスチックごみは、細かく砕けた「マイクロプラスチック」や溶け出す化学物質等によって汚染され、すでに人に取り込まれていることが確認されています。これらが体内に残ることで、健康への影響を与えている可能性も報告されており^[2]世界中で強く懸念されています。

「水」と人との関係、そして地球の健康

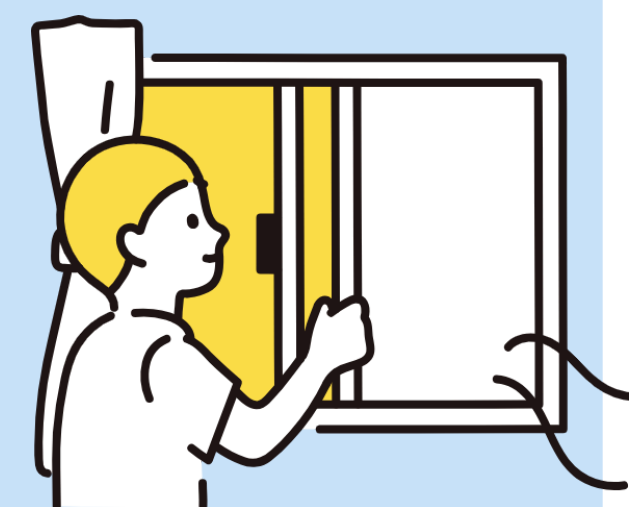
水は人の生活に欠かせないものです。しかし生活によって使われ、トイレや台所等から発生する生活排水が直接環境中に排出されると、川や地下水が汚染され、下痢や嘔吐を引き起こすきっかけともなり、時には抵抗力の弱い子どもたちの命を奪うことさえあります。



また生活を豊かにする工場からも、適切な処理がなされないことや、処理されていてもその量が非常に増えていることから、健康へのリスクが懸念される化学物質などが、川や海に流出し、地球の健康を悪化させています。化学物質、窒素やリンといった汚染物質のみならず、近年水や土壌中に薬が効かない薬剤耐性をもつ菌やウイルスも増えており、人への健康を守り生活を豊かにするはずのものが、逆に「人」と「地球」双方にリスクを生み出す事態を引き起こしています。

「大気」と人の関係、そして地球の健康

大気は人にとって欠かせないものの、しかし日々の生活は「大気」に悪影響も与えています。例えば、最近大きく報道されているPM2.5と呼ばれる非常に小さな粒子状物質は、



肺の奥まで入り込み、深く体内にとりこまれ、近年の研究では認知機能を低下させるリスクも示唆されています^[3]。

また、揮発性有機化合物(VOC)と言われる物質は、光化学スモッグを引き起こします。こうした大気汚染物質は、工場や自動車から排出されるだけでなく、家庭生活からも生み出されています。さらに日々の生活に欠かせない化石燃料の使用は、気候変動の最大の原因となる二酸化炭素を生み出しています。



バングラデシュ | 廃棄物と大気、二つの都市環境課題への挑戦

ODA見える化サイト(前フェーズ)

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1300287/index.html>

首都ダッカをはじめとするバングラデシュの都市部では、経済成長に伴い、廃棄物の増加や大気汚染が深刻化しています。日々排出される膨大なごみが処分場の容量を圧迫し、不法投棄されたごみや未収集のごみが街の衛生環境を悪化させています。また、大気汚染についてはWHOが定める基準値を大幅に超過し、世界で最も大気汚染が深刻な国の一つとされています^[4]。



配備されたごみ収集車

JICAは、2003年からダッカ市を中心に廃棄物管理の改善支援を開始し、複数のプロジェクトを組み合わせて包括的・段階的に支援を行ってきました。現在は、南北ダッカ市とチョットグラム市を対象に、特に急務である廃棄物の減量化と適切な廃棄物管理による環境負荷の軽減を推進しています。



大気汚染の大きな要因であるレンガ焼成炉

並行して、大気質管理のプロジェクトでは、大気環境や発生源のモニタリング能力の強化、大気汚染防止規則の施行強化を図り、大気環境の改善に向けた管理能力の強化に向けた協力を実施しています。

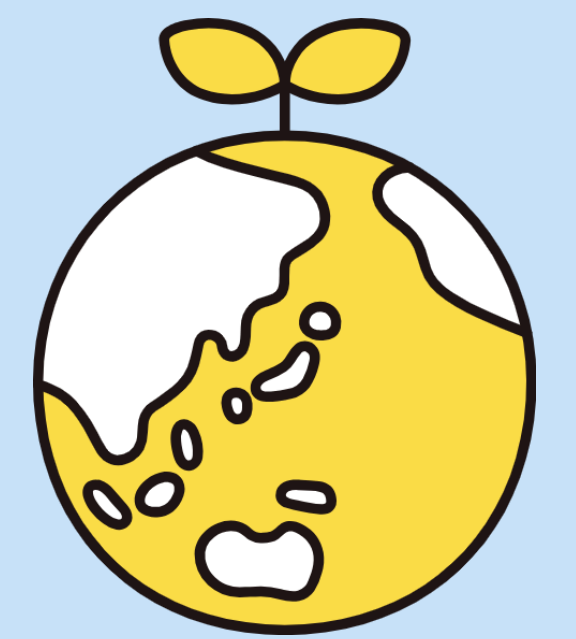
プラネタリーヘルスからみると

バングラデシュの廃棄物管理・大気質管理の両協力は、プラネタリーヘルスの考え方の実践につながるものです。

人の豊かな生活が「地球」と人の健康リスクを高める

JICAは途上国の人々の健康改善、社会開発の協力を進めてきました。しかし、人口の増加や社会の都市化の進行は、新たな「汚染」と健康へのリスクを生み出しています。こうした課題は、前頁に記載したような環境汚染による健康被害の深刻化や、プラネタリーバウンダリーと言われる「環境の限界点」に達しつつあることも警告しています。

この「人の生活が豊かになり、しかし環境の限界が、再び人の健康を脅かしている」という状況は、地球と人の健康を一体として捉え直す「プラネタリーヘルス」の視点が今、強く求められる背景となっています。バングラデシュの協力は、この待ったなしの課題への取り組みの一つの答えとなっています。



「下流」対策と「上流」対策、両方の介入

環境悪化と健康被害の負の連鎖を断ち切るには、発生した汚染に対処する「下流」の対策だけでは不十分です。プラネタリーヘルスの視点では、汚染や廃棄物を“そもそも出さない・減らす”という「上流」での対策が極めて重要になります。

バングラデシュの廃棄物管理プロジェクトでは、国家レベルの廃棄物管理マスタープラン策定やリサイクル活動を支援し、「ごみを減らし、どう有効活用するのか」という計画づくりまで広がっています。その中で、直接的な健康リスクを高める可能性がある医療廃棄物の管理に向けて、医療機関向けの研修を実施するなど、発生時点での管理意識にも焦点をあてています。保健セクター関係者に、自分たちの行動自体が健康への悪影響を与える可能性がある、という認識を持ってもらうことは、未来の健康リスクを防ぐ効果的な対策となります。

人と地球のリスクと健康のバランスの「最適解」を目指す

JICAは、「人の健康」と「地球の健康」を同時に達成するアプローチを目指しています。この目的達成のためには、特定の課題解決に目をむけるのではなく、総合的なアプローチをとっていくことが重要となります。

バングラデシュでは、廃棄物管理と大気管理を一体的に実施するという、一歩進んだ取り組みを行っています。例えば、廃棄物管理で重要な「野焼き対策」は、大気環境の改善にも重要であり、相互の連携や協力は不可欠です。また、協働で取り組むことでプロジェクトに関わるすべての関係者において健康影響リスクへの視点も共有していくことになります。



なお、こうしたJICAプロジェクトの実施にあたっては、環境社会配慮ガイドラインに基づき、事業が新たな環境負荷とならないよう最大限考慮し、人と地球双方の健康に貢献することを目指しています。

出典 [1]IPCC (2014) [Climate Change 2014: Synthesis Report] https://www.ipcc.ch/site/assets/uploads/2018/02/SYR_AR5_FINAL_full.pdf

(アクセス：2025年9月)

[2]United Nations Environment Programme (2021) [From Pollution to Solution]

[3]Science (2025) [Lewy body dementia promotion by air pollutants] <https://www.science.org/doi/10.1126/science.adu4132>(アクセス：2025年11月)

[4]IQAir (2025) [World's most polluted countries & regions] <https://www.iqair.com/world-most-polluted-countries>

(アクセス：2025年10月)